

日本仕事文化のストレス
(Stress in Japan's Work Culture)

アリエル デイヴィス

Ariel Davis
82-371 Advanced Japanese I

始めに

私のトピックの質問は、「日本の仕事文化では、どんなストレスがたまるか。」ということだ。

このトピックを選んだのは、日本人は仕事にかなり夢中になっていると聞き、残業、バイト、女性差別などに関するストレスはどれほどあるのか、調べたいからだ。状況によっては、将来日本で働くことになるかもしれないから、こういうことについて知っておく必要があると思っている。

つまり、日本社会の上下関係は日本仕事生活のストレスの理由の一つだと思う。フリーター生活も大変にストレスがたまるようだ。女性差別もまだ、完全に消えていなくて、それは女性にとってストレスの原因だろう。

日本の仕事文化は、どんなストレスがたまるか

上下関係

上下関係というのは、目上の人が目下の人にどれほど社会的な力があるのかということだ。日本ではこのような上下関係はかなり大事なことで、様々な習慣がある。一つは、上司を常に

タイトルで呼び、下の名前では呼んではいけないことだ。もう一つは、上司に対していつも尊敬語や謙譲語を使い、タメ口で話してはいけないことだ。

この上下関係は、上司と部下だけではない。先輩と後輩というものもある。先輩は年上で、長い間その会社に勤めたことのある人で、後輩は年下で新人だ。上司に対して敬称や敬語を使わなければならないのと同じく、先輩も「先輩」と呼び敬語を使う。

一方、上司や先輩は部下や後輩に対して、そんなに敬語を使わなくてもいいし、呼び捨てにしないこともない。かつては、部下がしくじった時に、上司はすごく怒鳴ることもあった。

上下関係も日本の残業習慣の原因なのかもしれない。部下は先に帰りにくくて、上司が事務所に残れば、部下も残るしかないと思ってしまう。

以上の件をみる限り、ストレスが発生する可能性は高いと思いながら、おおもりさんに聞いてみた。おおもりさんによると、このようなことは確かにあって、他の上下関係の例もある。例えば仕事が終わった後に、上司に居酒屋などに行かせられることもある。部下の立場から見ると、いくら家族のところに帰りたくても、上下関係のために、上司の誘いを流石に断るわけにはいかないことになっている。

しかしそれでは、仕事が終わっても、仕事は続くのではなかろうか。おおもりさんの話だと、こういうストレスを無くしたい人は現代的な日本の仕事文化を少しずつ変えようとしている。過去のサラリーマンなどの生活を望まない若者が増えているとおおもりさん。しかも、私たちが授業中で見たグラフによると、「日本人は仕事人間」というステレオタイプは百パーセント本当というわけではなさそうだ。最近の日本人もちゃんと休暇や休みを望むようだ。

日本人ゲストと話した時に、どうやら上下関係は私が思ったほど大変ではないそうだ。日本社会はこの上下関係を大事にしている、もう子供の時から教わっていることなのだ。日本人は一応慣れているから、ストレスの原因になっていない人がいるかもしれないのだが、ひょっと

するとそんなに慣れていない日本で働く外国人にとっては、これはいかにも大きなストレスの原因ではないかと、ゲストの皆さんが言っていた。

バイトやフリーター

現在の日本では、常勤をまったくしないフリーターという人が増えている。この人たちは普通の社員になりたくないらしくて、自由にいろんなパートタイムの仕事で勤める。

こういうフリーターになると、以上の上下関係の問題を少しでも避けることができるようになるかもしれないのだが、他のストレスの原因はフリーター生活そのものであろう。フリーターは常勤より給料が低くて、なかなか生活しにくいそうだ。フリーターについて中級日本語二で見た動画によると、フリーターは確かにある意味では自由があるけれども、残念ながらお金が少なくて、人生でできることも少なくなっている。

女性差別

特に女性におけるストレスの理由はいくつか出てくる。今でも残念ながら、女性差別は日本で続いている。最近あった「女子医大減点問題」が一つの例だ。この事件は構造的な女性差別がまだ続いているというのを証明している。

ある日本人ゲストの話によると、ある場合では私が思っていた男性ではなく、他の女性が女性を差別するというか、いじめる。どうやら女性から女性へのいじめが大変だそうだ。

終わりに

私も多くのアメリカ人も、日本の仕事文化についてステレオタイプを考えてしまう。日本人はいつも仕事の方を家族や友達より大事にしているとか、仕事をしすぎてあまり寝られなくて死ぬとか言われることがある。そんな中で、私はストレスがたくさんあると思い、三つの原因と思ったことを調べた。調べた結果、その三つがストレスの原因かもしれないが、日本の仕事文化の方が、私の母国であるアメリカよりずっとひどいというわけではなかった。

ステレオタイプというのは、何かの一部をその物の本体だとすることだと言えよう。しかし、日本人ゲストが授業に来た時、よく言われたのは、「会社によって違う」ということだ。これは日本だけではなく、どんな国でも一定しているわけではないということを示しているのではなかろうか。ゲストの皆さんの話によると、確かに嫌な職場や嫌な上司を経験したことがあるが、そういう仕事を辞めて、安心感のある仕事を見つけたそうだ。

提案・提言

とはいえ、日本の自殺比率はまだ高くて、仕事のストレスは全日本人にあるというステレオタイプほどではないとしても、重大な問題だ。そこでいくつかの提案をしてみたい。

まずは、無給残業を犯罪とする。多くの日本人は義理を強く感じて、この提案は少なくとも残業をさせられる人に給料を与えるから、そんなに仕事をしなくてもよくなるかもしれない。

次は、一週間に60時間以上働くのを禁ずる。私たちの現代的な社会では前よりそんなに働かなくてもよくなったと思うから、ストレスがたまらないように一週の仕事時間の上限を立てる。本当は40時間が普通だと思うのだが、ある時には残業などが必要なことになるのも事実であろう。

最後に、職場での差別に対する刑罰をもっと厳しくする。これは以前にあまりいなかったいわゆる働く女性を保守的な差別や批判からもっとしっかりと守るのではなからうかと思うのだ。残念ながら法律だけで、そういう保守的な人の意見が変わるわけではないが、もしかすると女性への差別をする人を厳しく罰すれば、その差別を辞めてから、女性はどれだけ良い働き者になるのか、知ることになるだろう。

参考文献

- トピックによる日本語総合演習 p.20 グラフ B
- <https://www.asahi.com/articles/ASL8F4S3DL8FUTIL023.html>
- <https://www.businessinsider.jp/post-172916>